

本を読んでみよう!

「日本という国」  
小熊英二  
(おぐま えいじ)  
理論社



人間は強くない。自分自身を見ても強くないし、最近の日本人の様子などをあれこれ見ても決して強いとはいえない。確固たる断固たる意見と意志を持って人生に臨めどいう教訓はあるがそれができたらどんなに良いだろうと思っていた。

小泉純一郎という人は強い人なのだろうか?靖国参拝にあたってあれ程依怙地になれるとは。普通日本人なら隣近所の顔色はどうしたって窺おうとするだろうし、激しい非難を浴びればこの主張はともかくも自分の家の事情はとりあえず置くものだがその気配は微塵も見られなかった。余程の「参拝派」をバックボーンに控えているのか、金か?あるいはこの人は日本人じゃないのか、日本はどうどう新しい人種を生み出したのか、などとつらつら思いながら本屋に立ち寄って見つけた本は「日本という国」小熊英二著理論社刊でした。

表紙の装丁は漫画調で字も大きく子ども向けの本かなと思って手に取りましたが「ヤングアダルト」新書だそうです。明治開国以降、戦争と経済を通じて昭和の敗戦処理から現在の改憲論議まで行われてきた国策遂行を、要点を押さえて判り易く書かれています。

若い人はどんな風にこの日本の事態を述べるのかという関心を持って読みましたが、極めて常識的な歴史観と立場で書かれていると感じました。

「これからの日本という国をどうするのがよいのか、それは君自身が考えてほしい」という巻末の言葉は、強くはない私たちが強靱なしたたかさをどうしたら作れるのかという永遠の宿題となるのでしょうね。 山卯波女



白州郷牧場、甘とうがらしの畑です

### 私とキララと白州と 河原 駒

私が初めて白州郷牧場に来たのは、2000年の7月でした。当初は全く別の用事でしたが、たまたま訪れた日が「キララ・夏の学校」に向けての最後のスタッフ会議の日で、あれよあれよという間に夏の学校への参加が決まり、気がついたら夏の学校で班リーダーをしていた!というのがこの牧場、そしてキララとの出会いです。

この白州郷牧場というところは常にたくさんの方が出入りしていて、だいたい誰がどういった関係でここに来ているのかわかるまで5年近くかかりました。未だに新しい出会いがあり、その繋がり、広がりにはいつもただただ驚くばかりです。

ここに今もキララのスタッフとして関わっていますが、その主な目的は子どもと色々な事をしたい!という思いの他に、自分が楽しみたい!様々な人と出会ってもっとたくさんの視点で物事を考えられるようになりたい!という思いもあり、現在に至っているわけです。ここに来て、一般社会でみんなが使っている言葉、「普通」ってなんだろう?と思うようになりました。それはまた言い換えれば、自分が今まで「普通」と思いながら一通りの考えや視点を持っていなかった事もあります。自分自身が学べる場として、これからもここ、白州郷牧場と関わっていけたらと思います。

### 編集後記

物議をかもした亀田興毅選手の世界タイトル獲得から一夜明けた8月3日、北杜市白州町にて、日本の36人の子ども達と韓国の10人の子ども達による「夏の学校」がはじまりました。台風の接近が噂されながらも天候に恵まれ、一週間の期間中ずっと快晴でした。

地元に住んでいながら、私ははじめてこのキララの学校に記録撮影係として接したのですが、大人にとっても子供にとってもなかなかハードな日程だと思いました。しかし思い出してみると、学校というのはもともと肉体的で、現実的で、容赦のない場所だったかもしれません。そして、単なるなかよし仲間ではない、ときには真剣なぶつかりあいもある空間で、子供たちはみな危なっかしいようできて驚くほど手強い存在であるようにみえました。

夏の学校が開校した8月3日に、中東ではイスラエルによるレバノン空爆が再開されました。しかし、白州で子供たちをみていると(たとえ彼らの言動にときに苛立っても)未来に対してポジティブな気持ちになるのは不思議だと感じました。

さて、次号、キララ新聞31号は9月末に発刊される予定です。ではまた。 井上忠彦



# きらら新聞 30

「書を読み、自然に親しみ、勤労にいそしむ」

2006年  
8月30日

発行 キララ新聞社  
発行責任者 秋山 眞兄  
山梨県北杜市白州町横手 2259  
白州郷牧場内  
TEL:0551-35-0131・4520  
FAX:0551-35-0132

## 子ども達の日韓交流と「身を捨てる」ことについて

今年の「夏の学校」は無事終了した。その一部の光景を本号にも掲載するが、詳しい報告は報告文集ですることになる。ただ今年の特徴を挙げておくと、①例年より人数が少な目であったこと、②相対的に低学年が多かったこと、③良く農作業をこなし、驚くほどよく食べたこと、④学習・講座が充実して来たこと、⑤視聴覚小ホールが完備した図書館が完成して設備面だけではなく、プログラムのやり易さと気持ちのゆとりが持てたことであろう。そしてさらに、⑥一昨年の夏の学校と同じように、韓国の子ども達(9名)が参加したことである。

韓国からの来た子ども達個々人の詳しい家族状況は分からないが、総じて高所得層か、それに近い家族の子ども達だと感じた。彼らを送り出した責任者のカトリック教会神父は、環境・農業・平和ということについての地域でリーダーシップを発揮し、白州郷牧場との関係も深い方である。韓国より「工業先進国」とされている日本で、「農」を軸としたキララの活動にあえて参加させることの意味を考えたのだろう。韓国の子ども達や引率してきた若者3名にとって、「鶏さばき」など驚いたことがたくさんあったようであるが、意味ある体験になったことは間違いなさだろう。日本の子ども達にとっても、外国、とりわけ隣国・韓国に同世代の友達ができることの意味は大きい。日韓の過去の歴史や現在の緊張関係を考えることは大切であるが、頭だけではなく具体的な人間関係を通して知り、それを基盤にして考えることが出来れば、より身近なことがらとなる。今回のキララでの日韓交流が、彼らの世代の日韓、ひいてはアジアにおける「平和」を創り出す礎になればと思う。ところでこの間、日韓・日中関係で「靖国」

問題が大きな影を落としている。この問題そのものをここで言及はしないが、その根っこにある「犠牲」ということについて触れておきたい。

前号で私は「身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ」という感性が、今やほとんど消滅してしまっていることについて述べた。「身を捨てる」ことは「犠牲になる」ことと大きく重なっている。毎年、アジア太平洋戦争敗戦(終戦)月である8月には、「靖国」「戦争」に関することが様々に語られる。そして「お国のために犠牲になった尊い命」という言葉が氾濫する。その言葉は過去のことを思い起こすためだけではなく、これから「国のために戦争で殉じることの尊さ」を刷り込む働きを担っている。つまり、「犠牲」「身を捨てる」という感性は、つねに危険な言説に巻き込まれる可能性がある。明治以降の富国強兵、近代天皇制、そして15年にわたるアジア太平洋戦争は、民衆のその感性を巻き込んだ証左であるといつてよい。問題は「誰のために」犠牲となるのか、身を捨てるのか、ということである。自らを決して捨てないもの、犠牲になることがないものために、身を捨てたり、犠牲になってはならない。それらは身を捨てること、犠牲になることを他者には求めるが、自らはそれによってより大きな権力や経済力を得ようとする。

私たちは「身を捨てさせられる」ことを拒否し、「身を捨てさせる」ことはしない、という覚悟を持たなくてはならない。身を捨てさせられたり、身を捨てさせることは、「身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ」とは真反対なことではかない。それが問われる時代が来つつある。

秋山眞兄

○お問い合わせはお電話かこちらにてお受けします。

<http://www.hakusyu.jp/kilala/>

[info@hakusyu.jp](mailto:info@hakusyu.jp)

8月3日

開校式  
竹の食器づくり  
夕の作務  
奥地班—鶏舎  
里香班—トマト収穫  
新谷班—甘長ピーマン  
駒班—食事  
チェ班—鶏舎・食事・ピーマン  
夜のプログラム  
ハングルで自分の名前を書いて名札をつくる  
新谷のゴミの話 明日から朝鶏舎に行く班が拡張機に生ゴミを入れることとする  
その他  
トマトアレルギーの子がいる参加申し込み時確認をすること



開校式。いよいよ始まりです。新谷班の顔合わせです。



朝の作務 今日採卵です。

8月4日

奥地さん東京 小沢さんから桃プレゼント  
ソン君蜂に刺される武川診療所へ  
6時30分起床  
7時 作務  
鶏舎・牛舎—駒・高橋班  
掃除—トイレニヶ所・風呂場—小5・6日本男子  
トマト—里香班  
米茄子・きゅうり—新谷班・奥地班・チェ班  
朝食  
芹田観察—駒・高橋班 芹田  
⇒ 蛍の沢へ  
収穫 男子は水茄子 女子は米茄子・長なす  
昼食  
川遊び尾白川で  
夕の作務  
ズッキーニ収穫新谷 万願寺  
収穫駒高橋  
鶏舎—里香班  
食事 奥地・チェ プルコギ  
チジミ  
夜—小田原企画コルクボード



尾白川渓谷を辿り、奥地さんの講義を聞くフィールドワークです。



高学年女子の麴仕込み。2日間に亘って麴の世話をしました。



竹で食器を作りました。怪我をしないように真剣に取り組めます。



朝の作務 お風呂も綺麗にします。



食事風景



キララ祭り

つくり・月の観察 (小原)

8月5日

作務  
鶏舎牛舎 新谷  
トマト チェ  
きゅうり・甘長・ピーマン・長なす 里香・奥地 高橋半分  
清掃 高橋半分  
朝食  
尾白川渓谷奥地さんの自然学講座フィールドワークは3年生以上、1,2年生は川遊び  
夕作務  
鶏舎 高橋半分  
万願寺草取り 高橋半分  
食事 里香・新谷 マーポー茄子  
夜 小栗監督の映像教室  
映画「埋もれ木」

8月6日

秋山校長高橋先生東京  
鶏舎 チェ女子  
ズッキーニ長なす 奥地  
ししとうミニトマトきゅうり 高橋駒小5女子 (チェ)  
万願寺 新谷  
掃除 里香  
朝食  
奥地講座 ミネラルウォーター3種「苦い・からい・ずっしり重い」を飲み比べる  
昼食 冷やし中華  
麴仕込み 6年女子チェリ  
韓国女子  
ネイチャーゲーム メイコ  
目隠しトレイル 発見ゲーム  
自由時間 洗濯 トマトゼリーづくり  
夕作務  
鶏舎 駒高橋  
草取り万願寺 新谷・チェ  
トマト 里香 奥地 韓国男子



朝の作務 茄子を収穫しました。



水を張った芹田にはどんな生物がいたでしょう。生物観察です。



小栗康平監督の「映像教室」の様子です。

大葉収穫その他大人  
食事 奥地日本男子 鶏ミンチハンバーグ  
夜 リズムで遊ぼう 竹の楽器づくり 演奏



8月7日

作務  
鶏舎・生ゴミ里香  
きゅうり甘長ピーマン 駒  
高橋チェ  
長茄子米ナス 奥地  
清掃 新谷  
ジャガイモ掘り12コンテナ  
川で昼食  
川遊び  
麴の盛り込み  
夕の作務  
鶏舎・生ごみ 奥地  
万願寺収穫 里香  
ズッキーニ草取り チェ  
新谷  
食事 駒高橋  
夜の講義 奥地教室  
5年以上「地球大紀行」  
はがき書き  
野菜送り状

8月8日

作務  
鶏舎生ごみ 駒高橋  
米茄子 奥地  
長茄子 新谷  
トマト チェ半分 里香  
清掃 チェ半分  
鶏さばき30羽10時開始  
血抜き羽とり  
模擬店準備  
キララ祭り

8月9日

野菜送り  
清掃  
作文書き  
閉校式  
おつかれさまでした!